

夏の高校野球パーフェクトガイド2018

地区勢力ピラミッド

第1グループ

東邦

2

第2グループ

中京大中京 愛工大名電
享栄 誉

3

第3グループ

栄徳 愛知啓成 至学館
愛産大工

4

第4グループ

誠信 愛知 西春 星城
中部大第一 中部大春日丘
名古屋市工芸

秋季大会

中京大中京(西)	0	5
愛工大名電(西)	3	3
大府(東)	1	3
愛産大三河(東)	0	3
東邦(西)	0	5
安城(東)	0	3
桜丘(東)	5	3
愛知啓成(西)	0	3

優勝II東邦(西)

春季大会

誉(西)	8	3
豊橋中央(東)	3	3
享栄(西)	6	2
安城(東)	2	2
東邦(西)	5	6
豊川(東)	3	3
西春(西)	3	2
愛産大三河(東)	2	2

優勝II誉(西)

大会展望

記念大会も「私学4強」が中心

東西に分かれる今年の愛知大会。名古屋市に校舎がある愛工大名電、享栄、中京大中京、東邦の「私学4強」はいずれも西愛知に入り激戦だが、今年もその中から優勝校が出そう。今春センバツにも出場した東邦が一步リードで、攻撃力があり、足攻め絡めて打ち勝っていきそうだ。中京大中京は今春県大会で公立の西春に2回戦でコールド負けしたが、巻き返しは可能。近年、甲子園から遠ざかっている享栄だが、「ワンチャン」ありそうなムードだ。

大学で大変身の愛知球児

DeNAのドラフト1位・東克樹(立命館大出)が5月末までに4勝を挙げている。高校時代は愛工大名電のエースとして甲子園でも登板したが、当時はずば抜けた球速はなく、体のサイズの小ささから「ドラフト候補」とは見られていなかった。また、今秋のドラフト指名が濃厚な栗林良吏(名城大4年)は、愛知黎明でエースを務めた高校3年夏、ベスト16で敗れた。下級生のころは遊撃手を守っていて、大学で150キロをマークするとは思ってもよらなかった。

野手編

打の主役は中京大中京・澤井

澤井廉(中京大中京)が県大会覇者の存在だ。5月末までで通算30弾をマークしている中長距離ヒッターで、昨夏の愛知大会決勝で放ったバックスクリューン左への先制本塁打は見事だった。このほか外野手では、後藤晃成(愛工大名電)が50メートル5秒7の俊足を生かし魅了する。永野伶(中

2年生では、石黒佑弥(星城)が昨秋から快速球で目立っている。

部大第一)も走攻守3拍子揃った好打者だ。舛井尚哉(誉)も攻守に素材がいい。

捕手は野口泰司(栄徳)が独壇場の働き。昨夏の愛知大会準決勝で満塁アーチを放つなど勝負強い。守備も高水準だ。

内野手では小林令和(星城)がセンスある打撃を見せ、投球を芯で捉える。渡辺愛世(愛知)はパンチ力がある。

2年生では石川昂弥(東邦)がプロ注目の逸材。強肩強打の大型三塁手で、左右両方向へ飛距離を出せる。澤野聖悠(誉)も大型でバットコントロールがよく、センター方向へ打球が伸びる。熊田任洋(東邦)はシユアな打撃で率を残し、守備での立ち回りも軽快だ。

注目野手



永野 伶(中部大第一)

北海道・東北

関東

北信越

東海

近畿

中国

四国

九州・沖縄